

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第214回

【学生の目】

建物の構造について勉強が進むと、以前は気にも留めなかったものに意味があることに気づかされる。

その一つが屋根の形だ。屋根の役割は大きく、雨や風などから建物を守るために、気候や地形などに応じてさまざまな工夫を施している。

左右を反転させた家

である(写真)。二つの建物をみてもまず心配に思ふことは、屋根が近接する側に傾斜して谷を形成しているため、雨や雪がお互いの敷地に入ってしまうのではないかとということだ。面積が広い片流れの屋根から感じる不安かもしれないが、十分な大きさの樋(とい)があれば、雪の少ないこの地域で心配は杞憂かもしれない。そうした相隣関係に問題がない。

は、リビングの日当たりをよくするためだ。正面に玄関をつけた場合、リビングは家の奥になってしまいか、玄関分だけ間口が狭くなってしまふ。そうした事態を避けるために玄関を正面につくらなかったのであらう。また、玄関を正面につくると駐車スペースの奥行きが制約されることに加え、シンプルながら存在感のある1階の壁面がもたらす二つの建物の統一感が失われる可能性もある。

個性と風情はデザインの力

千葉市にある自宅の近くを歩いていると、二つの住宅が目に残った。ほとんど同じデザインの建物を左右反転させて建てていて、二つで一つの建物になっているようなデザイン

いとすると、この分譲の仕方は面白いと思う。建築コストが抑えられるほか、道行く人の注目を集めるような個性のある建物群を造ることができていた。

土地を分割して分譲住宅を建てると、敷地は狭くなり、建てられる住宅のデザインには限界があるように思えるが、工夫次第で広くみせることや個性を持たせることができる。とをこの住宅は教えてくれる。

英国伝統の2戸建て住宅には、広くない敷地を有効利用し、建物を大きく見せる工夫がある。隣戸と接しない両脇を空けて出入口をとり、住民は庭造りで個性を出す。戸境壁を共有するため日本では普及しないが、戸建て開発のヒントがある。

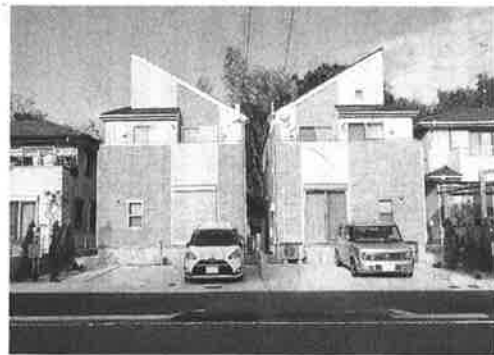


朽方 勇祐
不動産学部1年

もう一つ気になった点がある。それは玄関が正面にないことだ。普通、玄関は正面にあり、玄関が建物の見栄えをつくっているイメージがある。この住宅が玄関を正面につくらなかった理由として考えられるの

土地を細分化し開発許可不要の住宅地開発をするミニ開発では、住宅が密集化することと同じデザインの建物が並び風情がないデメリットがあると聞く。左右反転することで群

としての面白みを持たせる、住宅を片方によせて玄関を側面にとり、正面や外構で面白みを持たせるなど、ミニ開発だからこそ可能な方法で個性と風情を持たせることができる。デザインの力だ。



千葉市内で見つけた左右を反転させた家。ミニ開発ならではのデザインだ